
秋のたより

河 美子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

秋のたより

【Nコード】

N8909H

【作者名】

河 美子

【あらすじ】

毎日奮闘する母親の1日。それを見つめる息子。家族って何だろう。支えてるのはどっち？

今日は、朝から雨。

あれほど、傘を持って行ったらというのに、置いてったのね。

子供が4人。少子化なんて鼻で笑ってやるわ。がんばってるのよ、庶民は。老後のことも考えて、しっかり前向きに。

それなのに、子育て支援は明日からって話ではなかったのね。投票したのに。

新聞もやめようかな。今月は3945円だって。困るなあ。中、高生ばかり4人もいると。

お父さんはもう今月で退職ね。ずいぶんと年の離れた人との結婚だったから仕方ないけど。これからが学費かかるのに。

まあ、いいか。

「よしこ、私のメガネ、盗ったでしょ。」

また、靴箱の上よ、きつと。

「はあい、見つけましたよ。」

「あらまあ、どこにあったの。」

「はい、お巡りさんが持ってきてくれました。」

「そう。やっぱり、犯人がいたのね。」

「そうみたいですネ。」

「誰かが、布団を濡らしていったの。」

「まあ、犯人が誰かわからないんですか。」

「いやあねえ。水こぼして。きっと水を飲みながら泥棒してるのよ。」

「そうですね、ところで、お母さん、下着もぐつしよりですね。着替えましょうか。」

「そうするわ。早く持って来て。」

このやりとりを長男は呆れて見ている。しかし、この子は学校には行こうとしない。でも、黙って、雑巾を持って来てくれる。

「おばあちゃん、早くきがえんと風邪ひくよ。」

「まあ、どなたか知りませんが、ありがとございます。」

「僕は孫ですよ。」

「いいえ、私はまだ孫なんておりません。38だから。」

「あら、お母さん、私より若かったのね。」

と言いながら、着替えをさせると、

「いやあね、あなたがお母さんでしょ。」

こうなるまでに、3年かかった。真剣に怒って泣いた地獄の日々。息子は学校に行かないといいはって泣いた。

今は息子が家にいて助けてくれる。やさしい子。

学校に行かなくても人間としては、立派な子よ。

「あなたはお父さんにそっくり。」

「つまらないなあ、親父にそっくりなんて。でも、いや、この前、相談室の先生がお前は恵まれてるって。」

「そうよ、こんなやさしい親で。」

「僕、介護の勉強するよ。」

「そう、気長にやろうね。いつでも、体貸すわよ。オムツの替え方も。」

「いいねえ、自宅に教材があつて。」

雨はいつの間にかやんで、外は秋風。

「洗濯するわ。干すとき手伝って。」

「うん。」

秋
っ
て
好
き
。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8909h/>

秋のたより

2010年10月12日09時41分発行